

2010年度 第2四半期決算説明会

イオンクレジットサービス株式会社
 Aeon Credit Service Co.,Ltd. Investor Relations

目次

■ 第2四半期経営成績 P3

■ 第2四半期決算概要 P5

■ 下期重点実施事項 P15

■ 業績予想 P30

・本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での激しい競争、市場需要、為替レート税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確定要素を含んでおります。
 ・従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。

第2四半期経営成績

- 国内外で会員募集が順調に拡大し、連結取扱高は1兆5,746億円(前期比109%)
- 電子マネーの収益計上方法の見直しにより、営業収益に58億円の減少影響
- タイ、マレーシアでは、延滞区分ごとに貸倒引当方法を見直したことにより、繰入額が増加

<連結>	前上期	上期	前年同期比	公表数値	公表差
取扱高	14,511億円	15,746億円	109%	14,950億円	+796億円
営業収益	849億円	825億円	97%	837億円	△11.3億円
営業利益	86億円	85億円	98%	96億円	△10.9億円
経常利益	84億円	85億円	102%	93億円	△7.2億円
当期利益	△61億円	38億円	改善額+100	30億円	+8.4億円

<単独>	前上期	上期	前年同期比	公表数値	公表差
取扱高	13,088億円	14,126億円	108%	13,600億円	+526億円
営業収益	573億円	555億円	97%	559億円	△3.8億円
営業利益	31億円	37億円	119%	41億円	△3.4億円
経常利益	39億円	47億円	120%	51億円	△3.7億円
当期利益	△74億円	28億円	改善額+102	26億円	+2.1億円

財政状態

- カートショッピング取扱高が順調に拡大し、連結割賦売掛金残高は期首から399億円増加
- 1回払いの利用をイオン銀行ATMに限定したことにより、単独貸付金は期首から173億円減少

	連結		単独	
	実績	期首増減	実績	期首増減
総資産	9,017億円	+353億円	6,983億円	+354億円
営業債権残高合計	9,454億円	+255億円	7,514億円	+188億円
割賦売掛金残高	4,831億円	+399億円	4,068億円	+362億円
営業貸付金残高	4,622億円	△143億円	3,446億円	△173億円

	実績	前年同期比	実績	前年同期比
純資産	1,760億円	+29億円	1,352億円	+10億円
自己資本比率	17.2%	+0.6%	19.4%	+0.7%

第2四半期決算概要

5

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

有効会員数及び稼働会員数の推移

■ 連結会員数2,638万人(期首比82万人増)、単独会員数1,857万人(期首比49万人増)

■ 連結稼働会員1,339万人(期首比54万人増)、単独稼働会員数1,162万人(期首比47万人増)

	期首	上期	期首比
有効会員数	2,556万人	2,638万人	+82万人
国内会員数	1,808万人	1,857万人	+49万人
海外会員数	748万人	781万人	+33万人
香港・中国	116万人	125万人	+9万人
タイ	547万人	567万人	+20万人
マレーシア	71万人	75万人	+4万人
台湾	12万人	13万人	+1万人

※有効会員数には海外ハウスカード会員数(442万人)を含む

	期首	上期	期首比
稼働会員数	1,285万人	1,339万人	+54万人
国内稼働会員数	1,115万人	1,162万人	+47万人
年間稼働率	62.2%	62.8%	+0.6%
国内稼働率	63.6%	64.3%	+0.7%

6

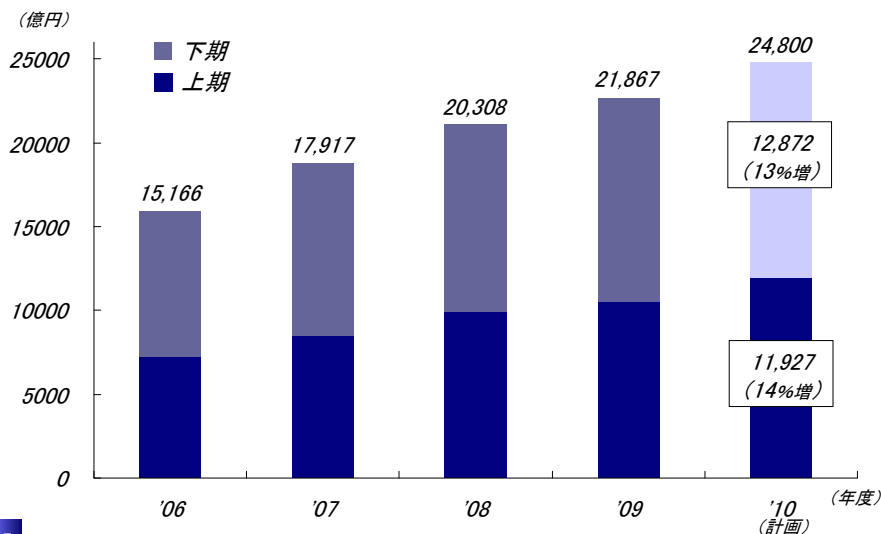
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

カードショッピング取扱高の推移(単独)

■ 上期は会員数が順調に拡大し、カードショッピング取扱高は1兆1,927億円(前期比114%)

■ 下期は加盟店との共同企画を推進し、取扱高は2兆4,800億円(前期比113%)を計画



7

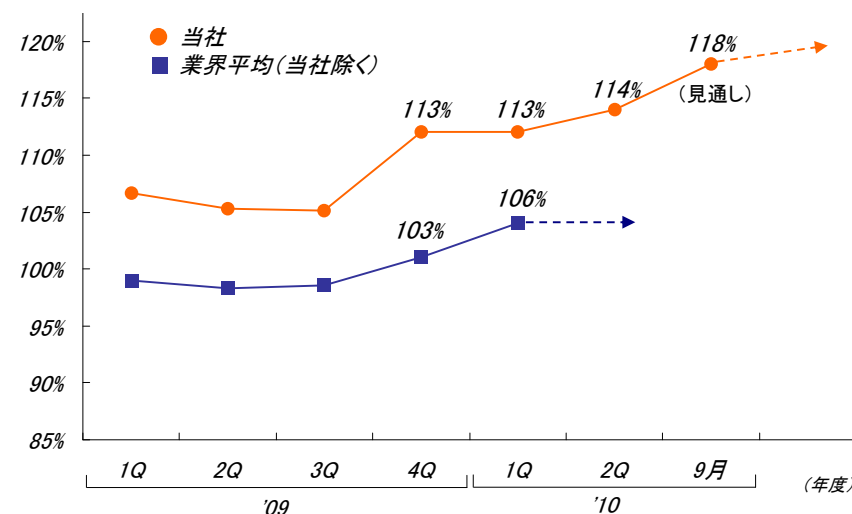
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

カードショッピング伸び率推移(単独)

■ 有効会員数、稼働会員数の増加により、取扱高の伸び率は業界平均を上回り推移

■ 加盟店との共同企画の実施により、2009年度第4四半期以降、2桁の伸び



8

※業界平均: 経済産業省数値を元に当社算出

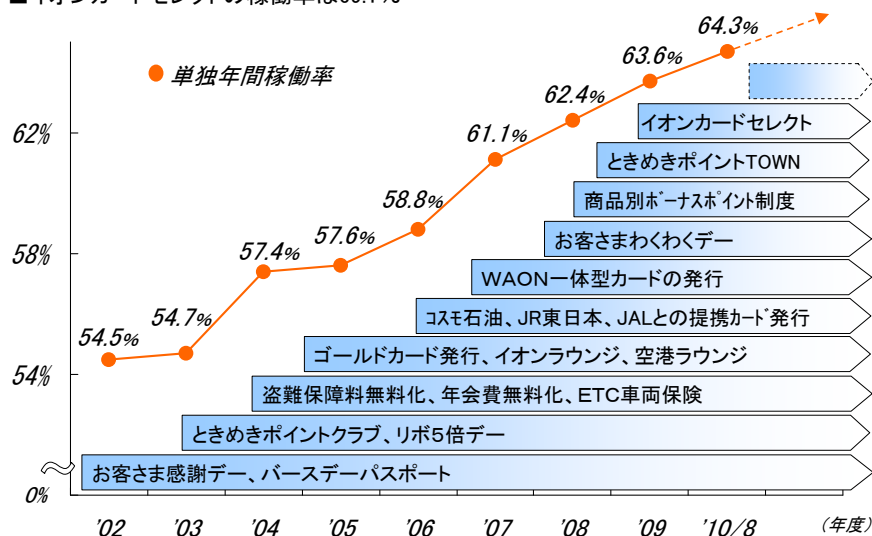
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

年間稼働率向上への取り組み(単独)

■当上期での稼働会員数は1,162万人(期首比47万人増)、稼働率は64.3%(期首比+0.7%)

■イオンカードセレクトの稼働率は69.1%



9

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

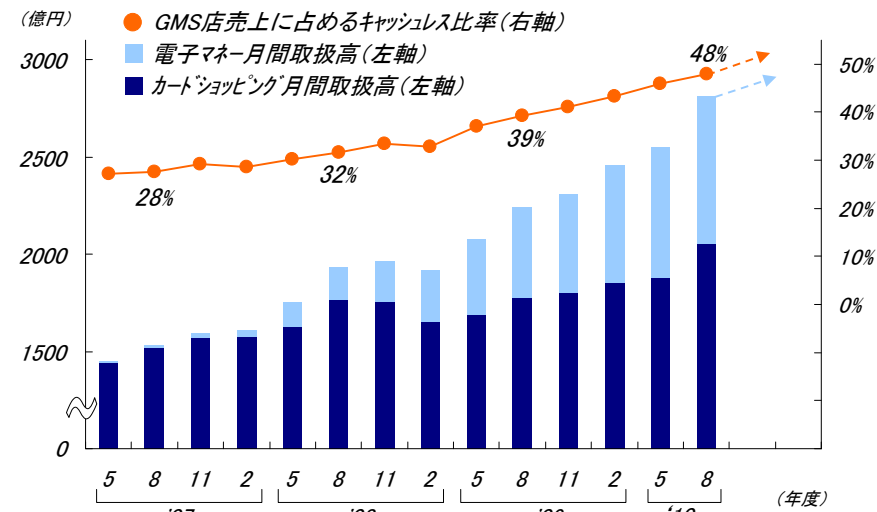
2010年度 第2四半期決算説明会

キャッシュレス比率及び決済額の推移

■カードショッピングと電子マネー合計の月間キャッシュレス決済額は2,800億円(前期比126%)

■電子マネーとクレジットの相乗効果により、取扱高及び稼働率が順調に拡大

■キャッシュレス化の進展により、レジ精算のスピード化、効率性の向上



10

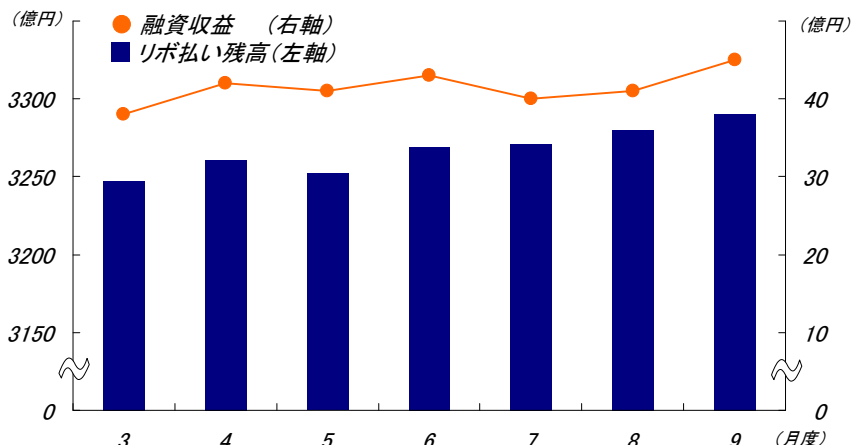
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

キャッシングの状況

■リボ払いへのシフトによりリボ残高が拡大(期首より30億円増)、融資収益は期首の水準維持

■1回払いをイオン銀行ATMに限定したことにより、ATM利用手数料が改善



ATM利用手数料 前年同期比	3	4	5	6	7	8	9
	84%	83%	85%	82%	34%	36%	45%

11

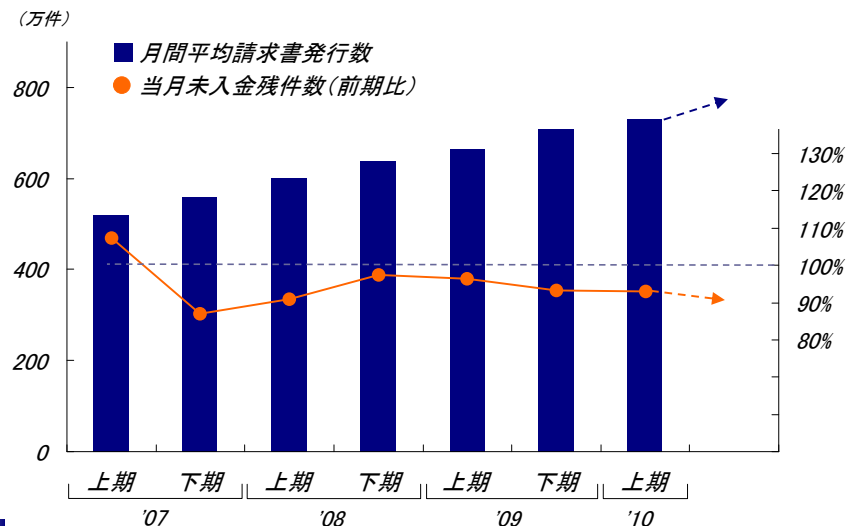
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

請求書発行数及び当月未入金残件数の推移

■有効会員数、稼働会員数増加により、月間平均請求件数は730万件(前年同期比110%)

■初期与信及び途上与信の厳格化により、当月未入金残件数は前年を下回り推移



12

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

貸倒引当金の状況

■上期単独の期中引当金繰入額は113億円(前期比18億円増)、下期は総量規制の影響を鑑み上期比6億円増の119億円を計画

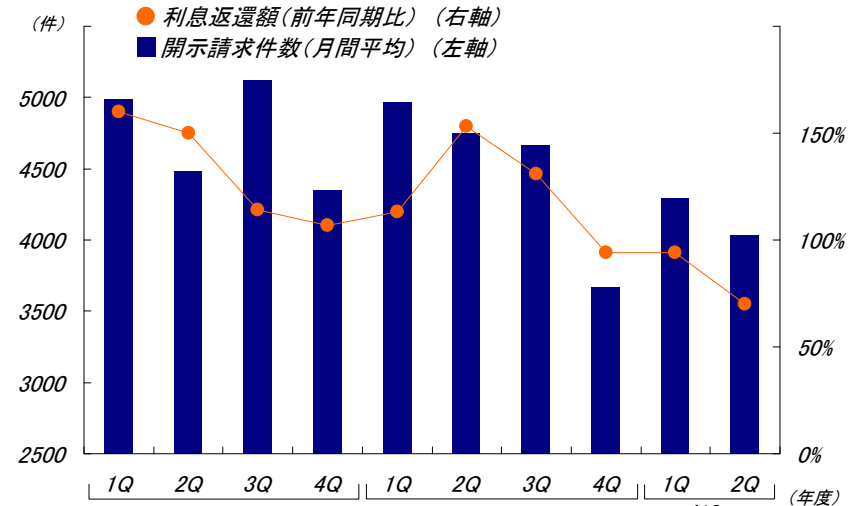
	2010年2月期	2010年8月期		2010年8月期
期首引当金残高	456億円	477億円	個人破産	全額償却
期中引当金繰入額	240億円	113億円	延滞3ヶ月以上 法的整理債権	395億円
貸倒償却額	219億円	122億円	一般引当金	73億円
期末引当金残高	477億円	468億円	合計	468億円

営業債権残高比率	6.5 %	6.2 %
実質貸倒コスト	459億円	235億円

※実質貸倒コスト=期中貸倒引当金繰入額+貸倒償却額

開示請求件数及び利息返還額の状況

■開示請求件数は前年同期比87%、9月度は前年同月比71%で推移
 ■利息返還額33億円(昨年同期比3億円減)、下期は30億円を計画
 ■利息返還引当金残高は196億円、引当年度は約3年



下期重点実施事項(国内)



セグメント別 営業収益概況

■下期は、単独でカードショッピング及び銀行代理業収益の拡大、海外では取扱高、残高の拡大により、営業収益を増加

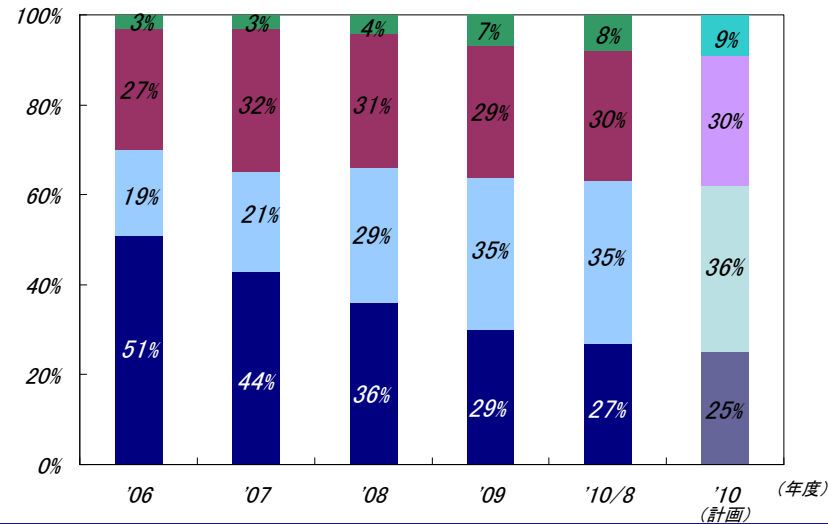
	上期		下期(計画)		通期(計画)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
カードショッピング*	261億円	112%	289億円	116%	550億円	114%
融 資	243億円	92%	251億円	98%	494億円	95%
電子マネー	31億円	165%	36億円	134%	67億円	146%
フィービジネス (銀行代理業等)	18億円	100%	50億円	231%	68億円	184%
国内子会社	28億円	93%	33億円	106%	61億円	100%
海外事業	259億円	101%	281億円	109%	540億円	105%
合 計	840億円	98%	940億円	106%	1,780億円	101%
連結消去	▲15億円	—	▲35億円	—	▲50億円	—
連結合計	825億円	97%	905億円	104%	1,730億円	100%

事業構造の転換

■ フィービジネス、決済事業が順調に拡大、営業収益に占める融資構成比は27%に低下

■ 海外事業は、台湾・インドネシアの営業利益拡大、ベトナム・フィリピンの下期黒字化を計画

■ フィービジネス(銀行代理業等) ■ 海外事業 ■ 決済事業(ショッピング、電子マネー) ■ 融資事業



17

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

決済事業の取り組み

■ イオンカードセレクトの会員募集を強化し、上期比40万人増の130万人を計画

■ 電子マネー事業では、WAONのネット決済への導入により、取扱高を拡大

	上期実績		下期計画		年間計画	
		純増数		純増数		純増数
カード会員数	1,857万人	+ 49万人	1,910万人	+ 53万人	1,910万人	+102万人
WAON発行数	1,580万人	+230万人	1,850万人	+270万人	1,850万人	+500万人
累計会員数	3,437万人	+279万人	3,760万人	+323万人	3,760万人	+602万人

下期重点実施事項

		
イオンカードセレクト募集の強化	モバイルWAONの拡大	WAONネット決済の導入

18

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

銀行代理業の展開強化

■ 総合金融ショップを80店舗に拡大し、クレジット・口座募集・住宅ローン取次・保険・投信販売強化

■ ATM共同事業を開始し、融資手数料を内在化、入出金の利便性を向上

	上期実績		下期計画		年間計画	
		新店数		新店数		新店数
店舗数	68店	+6店	80店	+12店	80店	+18店
営業収益	13億円	387%	39億円	392%	53億円	391%

下期重点実施事項

		
総合金融ショップの展開	住宅ローン取次業務の強化	ATM共同事業の開始

19

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

プロセッシング事業の拡大

■ 席数を期首より700席増の3,000席に拡大、債権回収業務等の受託拡大

■ グループ企業からの受託推進

	上期実績		下期計画		年間計画	
		増席数		増席数		増席数
席数	2,500席	+200席	3,000席	+500席	3,000席	+700席

下期重点実施事項

		
公共料金の回収受託	口座開設、コールセンター事務処理業務の受託拡大	キャッシュカード・電子マネー発券業務受託

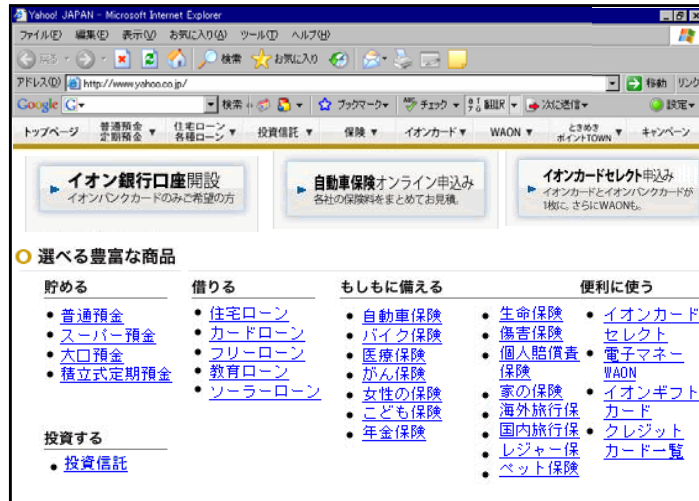
20

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

ネット事業の強化

- クレジット、保険、銀行、電子マネーが一体となったWeb金融ショップの構築
- シングルサインオンの導入による、安心・便利・お得なサービスのご提供



保険代理店事業の強化

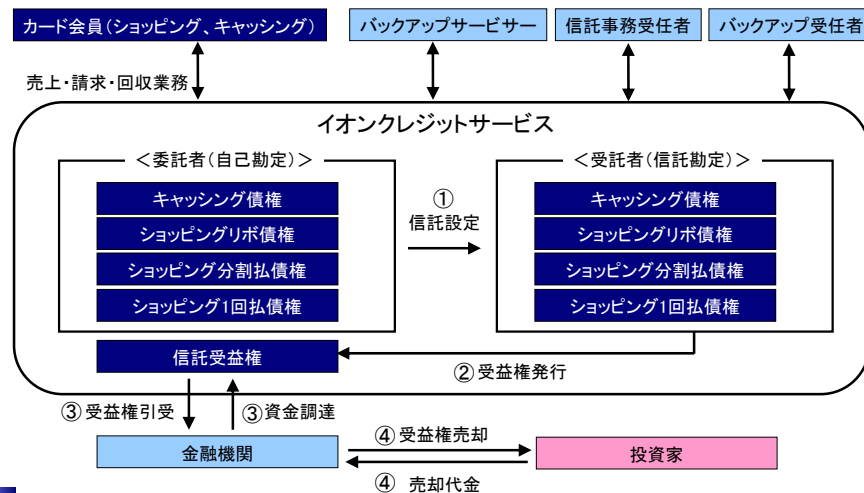
- 上期の営業利益は7億円(前期比122%)、通期の営業利益は16億円(前期比114%)を計画
- 少額短期保険会社を通じ、PB保険の開発

	上期実績		下期計画		年間計画	
		前期比		前期比		前期比
営業利益	7億円	122%	9億円	113%	16億円	114%

下期重点実施事項		
		
保険ショップの拡大 (53店舗)	ネット販売の強化	PB保険の開発 家財保険

新たなスキームによる資金調達の実施

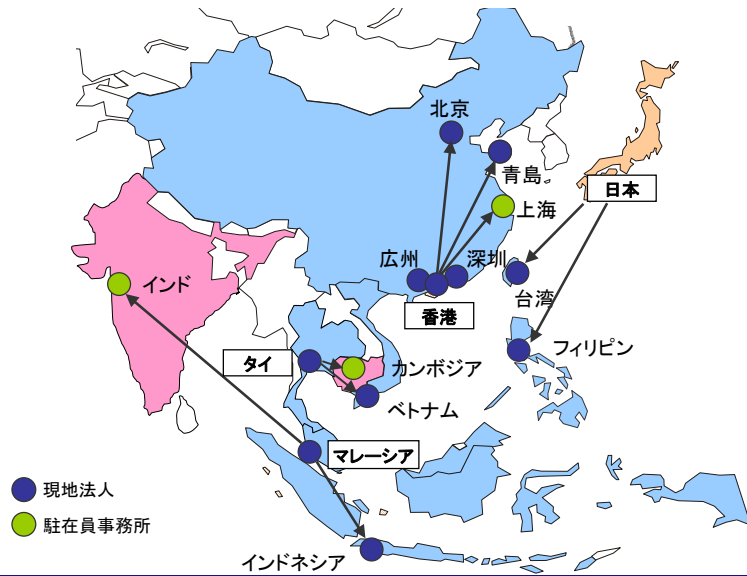
- 金融機関に委託していた債権の信託を、当社にて自己信託し、安定した資金調達を確保
- マスタートラスト方式の採用により、低コストで機動的な資金調達が可能



下期重点実施事項(海外)

アジア各国への展開推進

■日本、香港、タイ、マレーシア上場会社を通じて、周辺国への展開強化



25

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

台湾

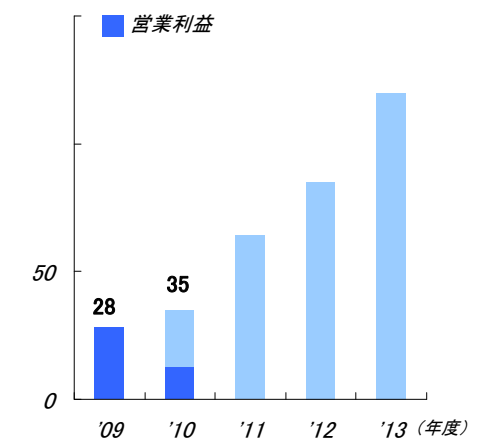
■上期営業利益は13百万台湾ドル(前期比118%)、通期35百万台湾ドル(前期比125%)を計画

■下期は自社加盟店ネットワークの拡大とアクワイアリングを推進

(百万台湾ドル) <営業利益計画>



グローバルモールとの提携カード発行



26

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

インドネシア

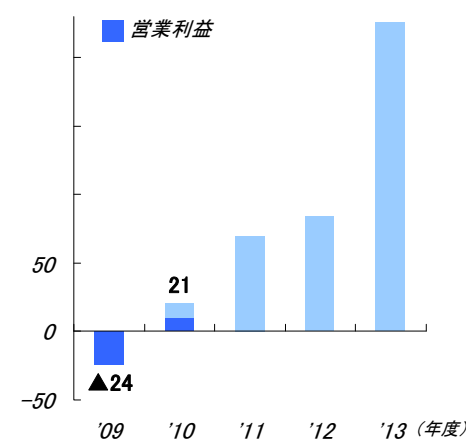
■上期営業利益は10億ルピア(改善額25億ルピア)と黒字達成、通期21億ルピアを計画

■下期は、クレジットカード発行を計画

(億ルピア) <営業利益計画>



提携先加盟店の開発・強化



27

Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

ベトナム

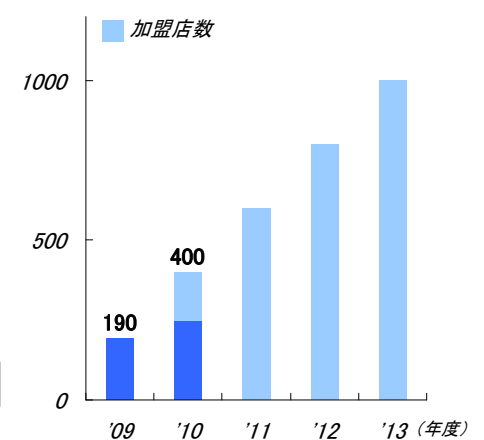
■上期加盟店数は期首より40店舗増の230店舗

■下期は、ハノイ営業所を開設、二輪車割賦販売を開始し、単月度黒字化を計画

(店) <加盟店数推移>



パソコンショップ



28

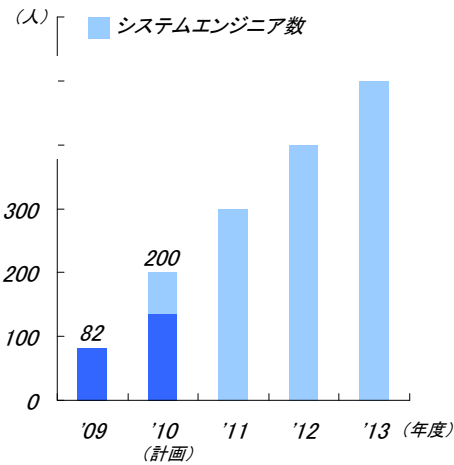
Aeon Credit Service Co.,Ltd.

2010年度 第2四半期決算説明会

フィリピン(システム開発)

- 上期の営業利益は11百万ペソ(改善額13百万ペソ)、通期の黒字化を計画
- 海外各社の特典・ポイントシステム共通化に向け、SE200名体制を構築

<システムエンジニア人員推移>



2010年度 通期業績予想

- 事業構造の転換を加速させるとともに、ローコストオペレーションの徹底により目標達成

	連結		単独	
	予想	前期比	予想	前期比
取扱高	3兆1,800億円	106%	2兆9,000億円	107%
営業収益	1,730億円	100%	1,178億円	100%
営業利益	230億円	112%	115億円	126%
経常利益	225億円	110%	135億円	124%
当期純利益	95億円	+93億円	75億円	改善額+101億円

	第2四半期末	期末(予想)	年間(予想)
配当金	15円	25円	40円